

# 複合移植によるサガラメ藻場回復研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成29～31年度)

担当：深層水科 山田博一

## 【研究の背景とねらい】

榛南地域の沿岸にはかつてサガラメやカジメの大規模な藻場があり、特にサガラメは榛南地域特産の食用海藻として冬期の重要な漁業対象種でした。しかし、昭和60年頃から始まった磯焼け現象によりこれらの藻場はほとんど消滅し、これに比例して海藻を餌にするアワビの漁獲量も激減したため、漁業者は藻場の復活を強く望んでいます。県では藻場の回復事業に取り組んでおり、カジメではコンクリートブロックを用いた移植で藻場が復活しつつありますが、サガラメは生育水深が浅いため、コンクリートブロックでの移植は適さないという問題があります。

これまでの研究で、サガラメに適した浅い海域に対応できる、簡易な移植基盤による移植手法を開発しました。しかし、基盤の移植は人力で行うことから大量の移植は困難であり、移植量を上回る藻食性魚類の食害によってサガラメがほとんど残らないことが大きな課題となっています。そこで、食害圧の軽減により核となるサガラメ藻場を作ること为目标として、他の海藻との複合移植によるサガラメの移植手法を開発します(図1)。さらに、海面養殖方式によるサガラメ遊走子の天然海域への供給と、これによる核藻場形成を目指し、近年の海水温上昇などの環境変化に適応する優良形質を持つサガラメの作出を進めます。

## 【期待される効果】

- ・ 複合移植により多様な藻場を作ることで食害を軽減してサガラメの生残を高め、サガラメ核藻場の拡大が期待されます。
- ・ 本来なら自然界で選抜されるはずだった温暖化に対応した高水温耐性等の優良形質を持つサガラメを作出し、海面養殖方式により海域に投入することで、核藻場の形成が促進され、環境変化に即したサガラメ藻場の回復が期待されます。
- ・ サガラメ藻場を回復させることで、サガラメ漁業が復活するとともに、アワビなど有用な藻食性動物の食物としての役割も期待されます。

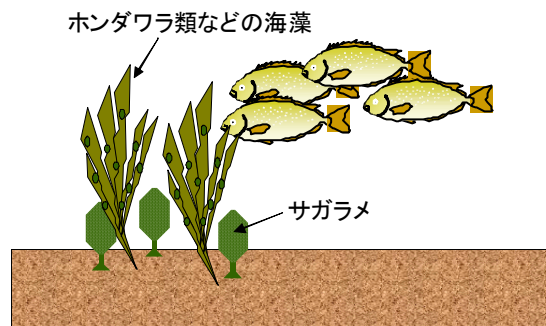


図1 複合移植のイメージ

## 【年次計画】

小課題名	研究年度			研究内容
	29	30	31	
1. 移植基盤の開発	○	○	○	繊維製マットの材質や形状等を最適化した新たな移植基盤を開発する。
2. 複合海藻移植による移植技術の開発	○	○	○	他の海藻との複合移植により移植サガラメの生残を向上させる技術を開発する。
3. 高温耐性等の優良形質を持つサガラメの作出	○	○	○	優良形質の選抜育種を行う。

(作成 平成29年4月)